

大船渡商工会議所経営発達支援計画評価委員会 会議報告

- 日時 令和2年1月22日(水) 午後1時30分～午後3時10分
■場所 大船渡商工会議所 1階研修室
■出席者

大船渡商工会議所経営発達支援計画評価委員(敬称略)

委員長	(株)松屋代表取締役 大船渡商工会議所常議員・商業部会長	門田 崇
委員	岩手県沿岸広域振興局経営企画部 産業振興室室長	藤村 真一
委員	大船渡市商工港湾部部長 (代理)商工課長	(欠席)鈴木 昭浩 小松 哲
委員	岩手県信用保証協会大船渡支所 支所長	松木 康文
委員	佐藤雄幸税理士事務所所長 経営安定特別相談室商工調停士・税理士	佐藤 雄幸
委員	(株)高橋コンサルティングオフィス代表取締役 中小企業診断士・外部専門家	(欠席)高橋 雅裕

大船渡商工会議所

会 頭	米谷 春夫
専務理事	新沼 邦夫
事務局長	齊藤 光夫
経営指導部部長	田端 隆志
経営指導部次長	小原 勝午
企画総務部次長	佐々木 晋
経営指導部課長補佐	志田 恵子
企画総務部課長補佐	伊藤 淳子
経営指導部係長	松田 あき子
経営指導部係長	三浦 晃
企画総務部主任	猪股 司

■会議概要

1. 開 会 齊藤事務局長
2. 大船渡商工会議所経営発達支援計画評価委員会設置規程について
3. 委嘱状交付
4. 会頭あいさつ 米谷会頭
5. 委員長あいさつ 門田委員長

事務局小原より設置規程を説明し、認定期間である令和3年3月末までの委嘱状を交付(門田委員長が米谷会頭より代表受領)し、委員長に門田崇氏を選任した。

続いて米谷会頭からは委員委嘱に関するお願いと、門田委員長からは会議への協力依頼を述べ、それぞれあいさつを行った。

6. 事 項

設置規程に基づき、門田委員長が議長となり協議に入った。

(1) 商工会議所が策定する経営発達支援計画について

後ほど協議する、当所が認定を受けた経営発達支援計画への理解を深め、小規模事業者支援法の改正の社会的背景を再確認するため、資料No.1に基づき事務局小原が説明を行った。認定までの経緯についても資料を提示し、あわせて説明を行った。計画作成のもとになっているガイドラインの構成についても説明した。

確認が主という事もあり、委員からは異議なく、全員これを了承した。

(2) 大船渡商工会議所が策定した経営発達支援計画の内容について

この事項も委員への確認事項という観点であり、認定計画の全文を資料No.2として提示し、事務局小原が説明を行った。

本事項も委員からは異議なく、全員これを了承した。

(3) 大船渡商工会議所が策定した経営発達支援計画の実施状況について

経営発達支援計画に対し、平成30年度に実施した事業概況について、事務局小原が資料No.3に基づき実施項目別に説明を行い、議長が委員より意見を求めながら評価を行った。

以下、各項目の実施概況と委員から出された意見の概要である。

I. 経営発達支援計画の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

【実施概況】

「市内中小企業景況調査」と題し、平成 29 年度に調査事業を実施したが、以後実施しかねている現状にある。

実施する上での事業費の問題や調査協力の度合い、調査結果に新鮮味が無いなどの事情が背景にある。

【委員からの意見・評価】

○景況調査については、年 2 回は調査し、毎年実施してほしい。

【事務局からの回答・改善策】

○調査結果が類似してくるとの報告をしたが、単に「調査結果がどう出た」という観点以上に、「その結果を踏まえどのように改善していくか」という視点も大事であり、分析力の向上も図っていかなければならない。

○発達計画への記載はないが、「早期景気観測 L O B O 調査」を毎月実施し、日商を通じて調査結果を報告している。

2. 経営状況の分析に関すること

【実施概況】

当初の計画にはなかったが、平成 29 年度から「大船渡ビジネスアカデミー」を実施しており、受講生でもある小規模事業者が、自社を題材に 3 C 分析や S W O T 分析を学んだことから、アカデミーの受講企業数を主たる実績に算入したことを説明した。

経営分析だけに特化したセミナーを未実施であることも報告した。

【委員からの意見・評価】

特になし

3. 事業計画策定支援に関すること

【実施概況】

当所の発達計画では企業のライフステージに応じた支援を計画していた。ステージⅠの創業に始まり、持続的な経営が可能となるよう、ステージⅢまでの事業承継や第二創業といった項目に対し数値目標を掲げていたが、直近の傾向として、創業相談の減少と事業承継相談の微増といった傾向に言及した。

また、ステージⅢにおける経営革新等、高度な支援に対する必要性も説明した。

【委員からの意見・評価】

- 創業支援の実績のカウントはどのように行っているか。
- 事業承継の実績は増えているのか。その他事業承継に関する情報交換。

【事務局からの回答・改善策】

- 創業支援については、出口でのカウントが策定計画の実態を反映していると考え、実際に創業まで至った件数を報告の初年度にカウントしてしまった。以後、この時点でのカウントを継続適用しているが、創業相談は初動の門戸のたたき方が多様であることから、初期の相談の時点で集計を取ればもっと件数は増えると考えます。
- 事業承継に関しては、相談案件が微増の状況。事業承継税制を活用するなどのケースは少ない。銀行だけに任せず、会議所も支援機関として活用してほしいと呼びかけた。
- 創業相談に限ったことではないが、所内では、実績値としてかなりの件数が計上できるはずだが、集計する体制が整っていない。丁寧な記録に基づき、可能な限りのカウントを試みていかなければならない。件数なのか回数なのかなど、単位の見直しも必要である。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

【実施概況】

事業計画策定支援を実施した事業者に対し、職員が2名体制でフォローアップすることとしていたが、体制作りに課題を残していることを説明した。

【委員からの意見・評価】

特になし

5. 需要動向調査に関すること

【実施概況】

東日本大震災の影響による販路の縮小という課題に対応するため、商談会や展示即売会を開催し、参加した出店者やバイヤーに対し各種調査を実施し、結果をフィードバックしてきたことを報告した。

【委員からの意見・評価】

特になし

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事

【実施概況】

商談会や物産展を関係機関との連携のもと実施してきたが、小規模事業者がより参加が促進できるよう、バイヤーの規模等を見直し継続開催（商談会の名称：三陸けせんマチナカ商談会）していることを説明した。

併せて、この商談会には伴走型小規模事業者支援推進事業補助金を活用していることも説明し、事業費の捻出にとっても、本発達計画の認定が必要不可欠であることを強調した。

また、海外まで販路を開拓できる事業者が限定されていることから継続課題として取り組む必要性も説明した。

【委員からの意見・評価】

特になし

II. 地域経済の活性化に向けた取り組み

【実施概況】

交流人口を活発にするため、計画に掲げたイベント来場者数の目標と実数について示した。

【委員からの意見・評価】

特になし

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事

【実施概況】

大船渡市、盛岡商工会議所などと随時情報交換を行ってきたことを報告した。

【委員からの意見・評価】

特になし

2. 経営指導員等の資質の向上に関する事

【実施概況】

OJTとOff-JTの組み合わせにより職員の資質向上をはかることを計画した。OJTの一環である、複数職員による支援力向上については、対応するための時間の問題、育成の機会(案件の有無)などの面で課題を残していることを説明した。

【委員からの意見・評価】

特になし

3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

【実施概況】

本日の会議のことであり、結果報告を大船渡商工会議所ホームページにおいて公表する。

【委員からの意見・評価】

特になし

☆その他の事項

【委員からの意見・評価】

- 計画に対する実施報告を受けると、努力の跡は伺える報告である。
- ある経営課題が生じた際、会議所の誰に相談に行ったらよいかわからないとの声を聞く。どのようにすればよいか。

【事務局からの回答・改善策】

- 知っている職員を窓口にしてお気軽に相談してほしい。

(4)その他

新沼専務理事より令和元年度の実施事業に対する評価委員会を4月末までには実施したい旨を述べ、全員これを了承した。

7. 閉 会

齊藤事務局長が会議終了を宣し閉会した。時に15時10分。